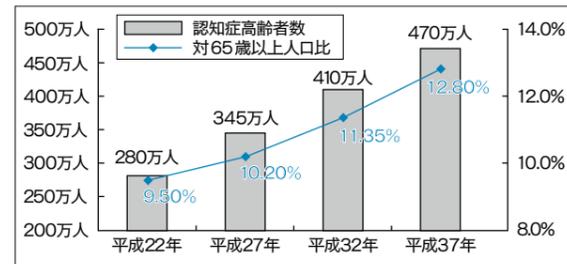


ご存知ですか？認知症

◆ 認知症は誰にでも起こりうる病気です

厚生労働省の推計によれば、認知症患者は平成27年には全国で345万人にのぼると推計され、65歳以上の人の10人に1人が認知症になるといわれています。



※厚生労働省「認知症高齢者数について」より

◆ 早期診断・早期治療が大切です

認知症はどうせ治らない病気だから医療機関に行っても仕方ないと思いませんか？
認知症も他の病気と同様、早くに気づき、医療機関に受診することで、次の効果が期待できます。

- ① 軽いうちから準備することが出来ます。
- ② 治療により改善する場合があります。
- ③ 進行を遅らせることが可能な場合もあります。

認知症専門医療機関では認知症に関する相談や検査・診察を行っています。

- ★ 県立淡路医療センター 認知症疾患医療センター
【診察日】月曜日・金曜日の午後 *完全予約制
【電話受付】月曜日～金曜日 午前9時～午後4時 ☎ 22-1200 (代表)
- ★ 南淡路病院 もの忘れ外来
【診察日】火曜日・木曜日の午前9時～正午、午後3時～5時30分 (完全予約制)
【電話受付】月曜日～金曜日 午前9時30分～午後4時 ☎ 53-1553

南あわじ市では認知症でも安心して暮らせるまちをめざしています

① 認知症サポーター養成講座のご紹介

- 認知症サポーターとは、認知症について正しい知識を持ち、地域で認知症の人と家族を温かく見守る応援者です。
- 南あわじ市では認知症に対する偏見や誤解をなくすとともに、認知症になっても安心して暮らせるよう「認知症サポーター養成講座」を実施しています。
- 講座に関するお問い合わせは、地域包括支援センター (☎ 44-3006) まで。

② 「認知症を支える家族の会 スマイル」のご紹介

スマイルでは、認知症を支えている家族の人が集まって月に1度定例会を開き、情報の提供、会員同士の交流を行っています。認知症の家族を介護している仲間同士で、悩みを打ち明けたり、情報交換して、一緒に笑顔になりましょう！ ※開催の日時と場所については毎月の「広報南あわじ」でご確認ください。

6月11日(水)午後2時～三原公民館で開催のスマイルでは、認知症サポーター養成講座を開催します。一般の人でも参加できますので、興味のある人は是非お越しください。

③ 認知症は誰にでも起こりうる病気です。介護を一人で抱え込まず、地域包括支援センターへご相談ください。

◆ 認知症とは

認知症とは老化による単なるもの忘れの状態や特定の病気のことを指すのではなく、脳の細胞が減少したり働きが悪くなったりすることで、生活上で認知機能低下を中心としたさまざまな支障が出てくる状態のことをいいます。

老化によるもの忘れ	認知症によるもの忘れ
体験の一部を忘れる	体験全体を忘れる
ヒントがあると思い出せる	ヒントがあっても思い出せない
人や時間、場所などわかる	人や時間、場所などがわかりにくい
日常生活に支障がない	日常生活に支障がある

◆ 加齢によるものとして見過ごされがちですが、認知症は身近な脳の病気です。

市民交流センターモデル地区のみなさんの声をお聞きしました

～「地域づくりに関する住民アンケート」結果～

市民交流センターモデル地区(松帆・伊加利・西淡志知・神代・三原志知)では、主役となる市民のみなさんの地域づくりに対する“思い”を実現していくための基礎資料として、地域づくりに役立てるため、住民アンケートを実施しました。そのなかで、地域のコミュニティの状況や地域づくりに関する関心度、重要だと思う取り組みなど、その結果の概要をお知らせします。

■ 調査の実施概要

平成25年12月から平成26年3月にかけて、自治会等にご協力をいただき全戸(伊加利は20歳以上の全住民)配付し、調査を行いました。回収数(率)は、松帆887票(62.7%)、伊加利317票(81.5%)、西淡志知199票(50.9%)、神代428票(57.4%)、三原志知161票(72.2%)となっています。

■ 調査の結果概要

◆ 地域コミュニティの状況について (松：松帆、伊：伊加利、西：西淡志知、神：神代、三：三原志知)

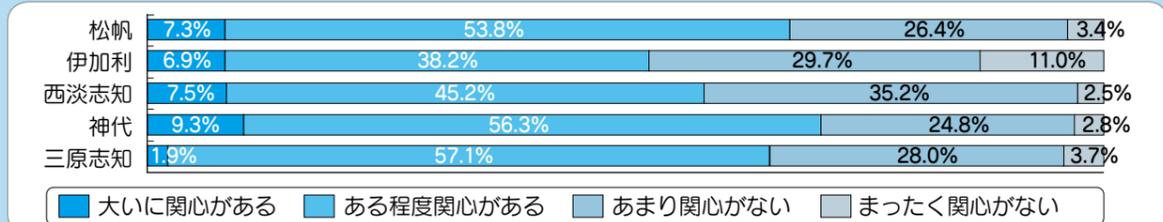
近年、地域のつながりが強かった当市においても、「地域のコミュニティが希薄化している」と言われています。そこで、近隣の人との関わり方をお聞きしたところ、次のとおりの結果でした。

- ① 積極的に関わり合いをもっている [松 41.7%、伊 27.8%、西 46.2%、神 47.2%、三 50.3%]
- ② 地域の役員や頼まれたときだけ [松 34.8%、伊 37.9%、西 36.2%、神 36.0%、三 39.1%]
- ③ あいさつをする程度でほとんどない [松 18.8%、伊 26.2%、西 9.5%、神 13.3%、三 6.8%]
- ④ まったく付き合いがない [松 0.9%、伊 4.1%、西 1.0%、神 0.7%、三 1.9%]

※積極的に関わりをもっている人が3割から5割程度いるのに対し、あいさつ程度やまったく付き合いがない人が1割から3割程度となっており、希薄化の傾向が見られます。地域のつながりを強化するお祭りや交流事業などを通してコミュニティを醸成する必要があります。

◆ 地域活動に対する関心度について

地域づくり協議会では、「元気で魅力ある地域づくり」を住民主体で進めています。このような「地域活動」に関心があるかをお聞きしたところ、次のとおりの結果でした。



※地域活動に対し、大いに関心がある・ある程度関心があるを見ると約5割から6割の人が関心をもっています。一方、約3割から4割の人が、あまり関心がない・まったく関心がない状況です。今後、地域づくりをみなさんの手で行政と協働しながら進めていくにあたって、まず、みなさんに関心をもってもらうことが大切です。

◆ 地域づくりで重点をおくべき取り組みについて

地域づくりを住民のみなさんの手で行政と協働しながら進めるにあたって、地域の発展のためにどのような取り組みに重点をおいたらよいかをお聞きしたところ、意見の多かったものは次のとおりでした。

松帆	伊加利	西淡志知	神代	三原志知
地域防災・防犯 18.4%	高齢者対策 20.0%	高齢者対策 14.8%	高齢者対策 17.0%	地域防災・防犯 18.2%
高齢者対策 16.4%	地域資源の活用 11.9%	地域防災・防犯 13.6%	地域防災・防犯 15.5%	高齢者対策 12.4%
環境保全・美化 11.2%	環境保全・美化 11.9%	少子化対策 11.1%	環境保全・美化 12.6%	環境保全・美化 11.6%
地域経済の活性化 9.2%	少子化対策 11.9%	環境保全・美化 10.8%	地域資源の活用 9.4%	地域経済の活性化 11.3%
地域資源の活用 8.4%	地域防災・防犯 9.7%	地域資源の活用 10.2%	少子化対策 8.6%	少子化対策 10.2%
			地域経済の活性化 8.6%	

※ 今後は、地域のみなさんの思いであるこのご意見をもとに、地域づくり協議会が中心となって、地域づくり事業計画書の作成やその実践活動などに役立てていきます。